

教師用解説

メタ認知を活用した
アカデミック・
リーディングのための

10のストラテジー



読む前に (p.1)

第1課では4つのメタ認知プロセスのうち『計画』のプロセスを扱っています。自分はその読み物の中からどのような情報を得たいか、どのように読み進めるかなどを考え、読む前に準備します。

1. 読む前に準備する (p.3)

【この課のポイント】

この課では、読む前に準備する練習をします。テーマについての背景知識を活性化させる練習、タイトル、章題、見出しなどから内容を予測する練習、読む前に何のために読むのかという目標を立てる練習、読む順番や場所について計画を立てる練習があります。まず読む前に、どのような準備をしているかを確認し、どのような準備をするかというのを考えるように促しましょう。そして、準備したことを意識して読む練習をしましょう。

なお、この課では「読む前」に行う作業に焦点を当てます。例えば、「背景知識を活性化させる」のは読む前でも読みながらでもできる作業ですが、この課では「読む前」の作業について練習します。そして、3課「自分の知っていることや経験に引きつけて考える」で、「読みながら」背景知識を活性化させる練習をします。

また、この課では、読む前に目標を立てる練習をしますが、目標が達成できたかどうかを自己評価する練習は、9課「読んだ後、理解度を自己評価する」で行います。

○あなたは読む前にどのように準備をしていますか。

学習者からあまり答えやアイデアが出てこない場合は、読む前に準備したほうがよい場面をあげましょう。例えば、新聞を読む時などは、見出しだけ読んで内容を想像し（予測）、どの記事をじっくり読むのか、どの記事を読まないのか判断する（計画）ことがあるでしょう。また、レポートのために専門書を何冊も読まなければならない時、まず目次を見てどこから読むか決めたり（計画）、何を読み取るべきか考えたりする（目標）こともあるでしょう。このような状況を思い出すように促し、どのような準備をしているのかを聞いてみましょう。

ストラテジーの練習 (pp.4～7)

Iは背景知識を活性化させる練習、IIは目標と計画を立てる練習、IIIは背景知識を活性化させ、目標を意識して読む練習です。

ストラテジーの練習Ⅰ (p.4)

予測の目的は、正しく予測することではなく、読む前に内容についてイメージを膨らませて、読みやすくすることです。答えはいろいろありますので、グループでさまざまな考え方を出し合ってみるのもいいでしょう。多様な予測のしかたがあることやさまざまな予測をしておくことで読みやすくなることに気づくように促すことが大切です。

ストラテジーの練習Ⅱ (p.4)

まず、目標を「～を知る」「～がわかる」「～を読み取る」という形で考えます。そして、その目標を達成するために、どの章を読めばいいか考えるように促しましょう。目標によっては、いくつかの章を読む必要があるので、読む順番を考えることも必要です。

ストラテジーの練習Ⅲ (p.5)

(1)

インターネットで情報を得る時は、母語で書かれたものを探し、それを利用していいでしょう。それぞれ知っていることや調べたことをクラスで共有し、「日本の受動喫煙対策の問題点」という文章が読みたくなるようなサポートをしてください。例えば、喫煙率、家庭内での受動喫煙、飲食店での分煙や禁煙、受動喫煙対策の各国の違いについて議論を深めてみるのもいいでしょう。

背景知識を活性化させることで、関連する語彙や読むための前提知識の整理ができ、また日本の受動喫煙についてより知りたいという動機づけにもなるでしょう。

(2)

目標を意識して読むことで、読み取るべき部分がはっきりし、読み取りやすくなるということを伝えるといいでしょう。

(3)

「日本の受動喫煙対策は『世界最低レベル』であること」という解答が出るかもしれませんが、「問題点は何か」という問いなので、「公共の場で『屋内全面禁煙』とする法規制が努力義務にとどまっていること」と具体的に答えるように促しましょう。

「努力義務」は「努力」と「義務」に分けて考えてしまう学習者がいるかもしれませんが、「努力義務」ということばであることを伝えるといいでしょう。

(4)

目標を意識して読んだ過程を振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。〈解答例〉にあるように、目標を意識して読んでみた時に、どのように読んだのか、どのような意識を持って読んだのかを丁寧に振り返るように促しましょう。ひとつひとつの過程を言語化する作業は、初めての経験かもしれないので、難しいこともあるでしょう。その場合は、グループ活動などでお互いにどのように読んでいったのかを確認していくのもいいでしょう。

(5)

背景知識を活性化させて読んだ過程を振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。〈解答例〉にあるように、調べたことが実際には文章に書かれていないこともあります。しかし、準備をして読む時の読み方は、準備をしなかった時の読み方とは違うことに気がつくはずです。その違いをクラスで共有するといいでしょう。

ストラテジーを使って読もう 「ユーモアの効果」 (pp.8 ~ 10)

1.

学習者の中には文章を見て、答えを探そうとする人がいるかもしれませんが、タイトルだけを見て考えるように強調しましょう。もちろん答えはいろいろありますので、「ユーモアの効果」について思いつくものをたくさんあげるように促しましょう。「ユーモアの効果」を考えるのが難しい場合は、「ユーモア」について考えるのもいいでしょう。

「背景知識を活性化させる」とは、どのようなことなのか、再度説明する必要がある学習者もいるかもしれません。

2.

1. と違い、文のタイトルだけでなく、本のタイトル、章のタイトル、小見出しも書いてあります。ここからさらに深く予測してみましょう。予測の目的は、正しく予測することではなく、読む前に内容についてイメージを膨らませて、読みやすくすることです。予測の効果を体験して、予測することを習慣とするように促しましょう。

もちろん答えはいろいろありますので、学習者が誤りを恐れず積極的に発言できるような雰囲気をつくることも大切です。

3.

〈解答例〉「ユーモアの効果について知る」という目標以外にもさまざまな目標がありますが、あまり目標が出てこなければ教師から提案してみるのもいいでしょう。いわゆる一般的な読解授業とは違い、学習者がそれぞれ異なる目標をもち、読解授業を行うという過程を教師も学習者も楽しんでみてください。

5.

背景知識を活性化させたり予測したりしてから読んだ過程を振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。まず、1. と 2. でどのような準備を行ったかを確認してから振り返りましょう。学習者によっては「読みやすかった」というコメントで終わってしまうかもしれませんが、〈解答例〉にあるように、どの部分でどのような意識を持って読んでいったのかを丁寧に振り返りましょう。難しい場合は、グループ活動などでお互いに確認したり、段落ごとに切り、予測と同じだったところ、違ったところなどを確認したりするのもいいでしょう。

6.

目標を意識して読んだ過程を振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。それぞれの目標が異なるので、気づいたことも一様ではないと思います。教師は、それぞれの気づきを言語化できるよう個々にサポートするといいいでしょう。振り返りが難しい場合は、グループ活動などでお互いに確認しあうと、新たなことに気づいたり、言語化しやすくなったりすることもあります。



振り返り

(p. 12)

振り返りをしてそれを言語化することは、初めはなかなかできなったり、面倒くさいと感じたりするかもしれません。しかし、振り返ることがメタ認知の活用を促すことにつながります。振り返りの説明についてはテキストのixページをご覧ください。学習者がうまく振り返ることができない場合は、解答例を提示したり、振り返りを促すような問いかけをしたりして、サポートしてください。

読んでいるとき (p.13)

第2課～第8課は、主に『モニター』『問題解決』のプロセスを意識しながら読む練習をします。第2課～第6課では、自分がどのように読んでいるか、効率的に読み進めているかどうか、読んでいる内容が理解できているかどうかなどを意識して読む練習をします（『モニター』）。第7課と第8課では、読んでいる時に理解できない部分があったら、推測したり質問して確認したりして、理解できるようにする練習をします（『問題解決』）。

2. 知っているルールを利用する (p.15)

【この課のポイント】

この課では、新しいルールを学ぶのではなく、既に自分が知っているルールを意識して読むことがポイントとなります。論説文でよく使われる序論・本論・結論などの構成の型、意見を述べる時の文末表現などの決まりごと、接続詞や副詞などの知識など、文章の内容を読み解くための手がかりとなるものを、ここではまとめてルールと呼びます。読みながら利用できるルールはいろいろありますので、それを意識しながら読めるように練習します。

○あなたはどのようなルールをどのように利用して読んでいますか。

学習者からあまり答えやアイデアが出てこない場合は、ルールの例として、複数の事柄を並べて述べる場合に使う表現に何があるかを学習者に問いかけ、「まず」「次に」や「第一に」「第二に」などの表現を確認するといいいでしょう。いろいろ例をあげることで、「ルール」のイメージがつかめて、アイデアが出てくるかもしれません。学習者同士で知っているルールを出し合ってクラスで共有したり、教師が提示したりして、練習に入る前にルールを整理してもいいでしょう。

ストラテジーの練習 (pp.16～p.18)

文章を読みながら、どのようなルールを利用して内容を理解しているのか意識することで、メタ認知の活用を促す練習をします。

利用したルールをことばで説明することは難しいかもしれません。その場合は、文章を理解するための手がかりとなる表現とわかったことを学習者にあげてもらい、そのルールはどのようなルールなのかクラスで考えたり、教師が説明したりしてもいいでしょう。

ストラテジーの練習Ⅰ (p.16)

文章が短いので、ルールとしては、筆者の主張（「～べきだ」）、例示（「例えば、～」）しか出ないかもしれませんが、最初の練習なので、簡単なルールで言語化の仕方を練習しましょう。

ストラテジーの練習Ⅱ (p.17)

この文章では、【例】や<解答例>にあるように、論点や「まず」「次に」「さらに」という論説文でよく使われる表現を扱っていますが、そのほかにも学習者が利用したルールがあれば、積極的にとりあげるといいでしょう。

ストラテジーの練習Ⅲ (p.18)

練習Ⅲは、ルールを利用して文章の続きを予測する練習です。文章を読む時に予測しながら読むと、理解しやすくなったり、効率的に読めたりします。自分は読みながら先を予測しながら読むこと、予測する時は何か手がかりがあって予測することを意識するよう促すことがポイントです。

1課でも文章を読む前に準備することの1つとして、文章の内容を予測する練習をしましたが、この課では、読みながら先を予測するという点が違います。

ストラテジーを使って読もう 「高齢化はなぜ問題か」 (pp.19～22)

◆読んでみよう

文章を読みながら、どのようなルールを利用して内容を理解しているのか意識することで、メタ認知の活用を促す練習をします。<解答例>にあげたもの以外でも、学習者が気づいたルールがあればクラスで共有し、いろいろなルールがあることを意識するよう促すといいでしょう。知っているルールがあってもそれをことばで説明することは難しいかもしれません。その場合は、文章を理解するための手がかりとなる表現*とわかったことを学習者にあげてもらい、そこからそのルールはどのようなルールなのかクラスで考えたり、教師が説明したりしてもいいでしょう。また、利用したルールを書くのが難しい場合は、一段落ずつ一緒に練習してもいいでしょう。

*文章を理解するための手がかりとなる表現

「～はなぜでしょうか」「どうすれば～でしょうか」「すなわち」「次のようなものが挙げられるでしょう」「～に対し・・・」「～だけでなく・・・」「このように」など

3. 自分の知っていることや経験に引きつけて考える (p.25)

【この課のポイント】

この課では、自分の知っていることや経験に引きついたり、自分がわかることばや表現で言い換えたりしながら読む練習をします。文章に使われているひとつひとつの語彙や表現はわかるけれども、深く理解できないときには、自分の知っていることや経験に引きつけながら読むと、より深く理解でき、その内容が記憶にも残りやすくなります。

なお、1課「読む前に準備する」で行った「背景知識を活性化させる」でも自分の知っていることや経験を思い出す作業をしますが、1課で行った練習は読む前に行うものです。この課は、読みながら行う作業であるという点が異なります。

「自分の知っていることや経験に引きつける」練習をした後で、どのように自分の知っていることや経験に引きつけたのかを振り返り、説明する練習をします。

○ あなたは自分の知っていることや経験にどのように引きつけて考えながら読んでいますか。

学習者からあまり答えやアイデアが出てこない場合は、学習者が自分に引きつけて考えやすいことをあげてみましょう。例えば、将棋のルールについて読んでいる時、「自分の知っているゲームのルールに似ている」、「自分の知っているゲームと似ているがこは違う」などというように、考えながら読むことがあげられます。

ストラテジーの練習 (pp.26～27)

どのように自分に引きつけて考えたかを書いて振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。ストラテジーの使い方の例 (25 ページ) にあるように、自分の知っていることや経験したことを当てはめたり、自分がわかることばや表現で言い換えたりするように促すといいでしょう。

ストラテジーの練習 I (p.26)

下線部の内容は、異文化を経験している学習者にとっては、自分に引きつけやすい内容でしょう。日本の文化との違いで感じたことなどを思い出すように促しましょう。また、①の【例】を参考にしたり、＜解答例＞のように、知っていることをあげたりするといいでしょう。

ストラテジーの練習Ⅱ (p.27)

この文章は少し抽象的な文章ですが、抽象的な文章こそ、自分に引きつけて考えると理解がしやすくなると学習者に伝えるといいでしょう。もし語彙の意味がわからないという理由で引きつけて考えることができない場合は、クラスで語彙の意味を確認してから、下線部について、自分の子どもの頃を思い出したり、自分がわかることばに言い換えたりするよう促しましょう。

ストラテジーを使って読もう 「患者と医師との関係」 (pp.28～30)

◆読む前に

自分が病院に行った時、医師とどのような会話をしたかを思い出しやすい働きかけをしましょう。医師に対しては、「病気を治してくれてよかった」、「一方的に話されて質問もできず嫌だった」など学習者はさまざまなイメージを持っているでしょう。

イラストでは、患者の男性が汗をかいてうつむいている一方で、医師の男性はペンを持ち高圧的な態度をとっているように見えます。また、医師と患者の距離を示す矢印やいすの違いなどにも注意し、それぞれの描写がどのようなことを意味するのか考えましょう。

医師とのコミュニケーションについての文章を読みますので、学習者が医師とやりとりした経験を十分に思い出せるようにしましょう。

◆読んでみよう

どのように自分に引きつけて考えたかを書いて振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。下線部にあることばや表現について、どのような方法で自分に引きつけて考えたのか確認しましょう。また、①～⑤以外で深く理解したいと思うことばや表現についても、余裕があれば同様の活動を試してみるのもいいでしょう。

4. 焦点をしぼる (p.33)

【この課のポイント】

この課では、焦点をしぼって読む練習をします。自分が知りたいことのみ読み取ればいいときや、時間が限られている時などに役に立つ戦略です。知りたいことがあって自分で何を読み取るかを決めて読む場合に通常は焦点をしぼって読みますが、この課では焦点をしぼって読む過程に注目するため、指示文に読み取るべきことが指定してあります。なお、短い時間で知りたいことを読み取る練習をするために制限時間が設定してあります。練習では、焦点をしぼって読む過程を意識し、文章を読み終えた後で、どのように焦点をしぼって読んだのかを確認しましょう。

1課では、目標設定で知りたいことや読み取りたいことを決める練習と、その目標を意識しながら読む練習をしました。1課では、読んだ後に、知りたいことの内容を確認しただけですが、この課では、知りたいことをどのように探したのか、どのように焦点をしぼって読んだのかという過程をしっかりと確認しましょう。

○あなたはどのように焦点をしぼって読んでいますか。

学習者からあまり答えやアイデアが出てこない場合は、焦点をしぼって読むことが多い場面をあげましょう。時間が限られている時、読む量が多い時など、焦点をしぼらなければならないことは普段よくあることだと思いますので、そういった状況を思い出すよう促し、どのような対処をしているのかを聞きましょう。

ストラテジーの練習 (pp.34～35)

焦点をしぼって読んだ後で、どのように焦点をしぼって読んだのかを振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。Iは指示文にあることばに焦点にしぼって読む練習、IIは筆者の主張に焦点をしぼって読む練習です。

ストラテジーの練習 I (p.34)

2.

指示文にあることば「店側のメリット」をどのように探したのか、その探した過程を確認することで、メタ認知の活用を促す練習をします。過程を説明することは初めは難しいかもしれませんが。解答例にあるように、どのように探したのか、順を追って説明できるように、まずはクラスで一緒に確認してもいいでしょう。

ストラテジーの練習Ⅱ (p.35)

2.

主張をどのように探したのか、その過程を確認することで、メタ認知の活用を促す練習をします。筆者の主張が見つけれない場合は、主張を表す表現でよくある表現（「～べきだ」「～ではないか」など）を提示して、その表現に焦点をしばるよう促しましょう。

ストラテジーを使って読もう (pp.36～40)

焦点をしばって読んだ後で、どのように焦点をしばって読んだのかを振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。

ここでは、2つの文章があり、「ストラテジーを使って読もうⅡ」のほうが難易度が高くなっています。時間の都合や学習者の日本語力に応じて、扱う文章を選択したり、制限時間を変更したりしてください。

ストラテジーを使って読もうⅠ 「グリーンなライフスタイル」 (pp.36～38)

レポートなどの課題で、「エコマーク」「グリーンマーク」について調べているという設定です。「エコマーク」「グリーンマーク」について書かれているところをどのように探したのか、その探した過程を確認しましょう。

ストラテジーを使って読もうⅡ 「葛藤する子どもの心をも受け入れる」 (pp.39～40)

◆読む前に

学習者が「葛藤」ということばがわからなくて何も思い浮かべられない場合は、意味を調べさせたり、教師から説明したりしてください。また「葛藤」ということばの意味がわかっても、「子どもの葛藤」は思い浮かばないかもしれません。そのような時は、学習者の子ども時代の経験を思い出すような働きかけをすればいいでしょう。または、解答例を教師が提示するなどして、イメージしやすくなるようにしてもいいでしょう。

◆読んでみよう

「筆者の考える受容とはどのようなことか」に焦点をしばる練習です。「受容」ということばと、筆者の考えや主張を表す表現を探する必要があります。解答は最後の段落にまとも書かれています。その前の部分でも「受容」について具体的に説明されているので、焦点をしばるのが難しいかもしれません。解答がなかなか見つけれない場合は「受容」ということばを「～というのは」「～ということが～ということなのだ」などで説明している部分を探すように促すといいでしょう。最後の段落に、「あるがままに受け入れる、受容するというのは～」と書かれているので、その部分を答える学習者もいると思いますが、最後の文のほうがよりまとも説明されているため、解答例としてあげてあります。

5. ときどき止まってメモする (p.43)

【この課のポイント】

この課では、読んでいる時に大切だと思ったところ、文章の流れが変わったところ（接続詞など）、内容が理解できているかどうか確認したいところ（指示詞など）に止まってメモする練習をします。この課で練習する「メモする」とは、ことばをメモすること以外に、線を引いたり、記号をつけたり、丸で囲んだりすることも含め、文章に自分で書き入れるすべてのことを指します。練習では、なぜそこで止まってメモをしたのかを意識し、説明できるようにします。

○ あなたはどのようなところで、止まってメモしていますか。なぜそこで止まってメモしていますか。

学習者からあまり答えやアイデアが出てこない場合は、線を引いたり、しるしをつけたりすることもメモすることの一部であることを伝え、読みながらメモすることがあるかどうか聞くといいでしょう。そして、どのようにメモするのか、なぜメモするのか、メモするとどのような利点があるのかを考えるように促し、クラスで共有するといいいでしょう。

ストラテジーの練習 (p.44)

1. メモするのは、自分が重要だと思ったところや、確認したいところでいいですが、ここでは練習として、指示詞や接続詞、「効果」や「問題点」などのことばに注目するよう促すのもいいでしょう。メモができれば、グループやクラスで共有してみましょう。メモするのが難しい場合は、一段落ずつ一緒に練習して、プロセスを可視化するといいいでしょう。なお、解答例はあくまで例ですので、学習者それぞれが好きな記号などを使ってメモしてもいいです。

2. 自分のメモを見返して、なぜそこにメモしたのかなど考えることでメタ認知の活用を促す練習をします。学習者がどこで止まったか、なぜそこにしるしをつけたりメモしたりしたかを発表して、クラスで共有するといいいでしょう。「大切だから止まった」「文章の流れが変わるから止まった」という説明だけで終わらないようにします。なぜそこが大切だと思ったのか、どのように流れが変わると思ったのかを確認しましょう。また、どのようなメモをすると理解を助け、後で読み直した時に役に立つのかなどについてクラスで話し合うといいいでしょう。

◆読んでみようⅠ、Ⅱ

「ストラテジーの練習」で一度練習していますので、ここでは、学習者に自由にメモをするよう促すといいでしょう。メモするのは、自分が重要だと思ったところや、確認したいところだということを確認しましょう。また、ストラテジーの使い方の例(43ページ)も参考にするように促しましょう。

学習者がメモした後に、どこで止まったか、なぜそこにメモしたかを振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。「大切だから止まった」「文章の流れが変わるから止まった」という説明だけで終わらないようにします。なぜそこが大切だと思ったのか、どのように流れが変わると思ったのかを確認しましょう。また、どのようなメモをするとう理解を助け、後で読み直した時に役に立つのかなどについてクラスで話し合うといいでしょう。

6. 図や表を利用する (p.49)

【この課のポイント】

この課では、文章中に図や表がある場合に文章と図や表を対応させながら読む練習と、複雑な文章を読むときに自分で図や表をかいて内容を理解する練習をします。そして、自分がどのように図や表を利用して読んでいるのか、図や表を利用するとどのようにわかりやすくなるのかを意識するようにします。

○あなたはどのように図や表を利用していますか。

「利用する」には、文章中に図や表がある場合にどのように対応させるかということと、複雑な文章を読み解く時に自分で図や表をかきながら情報を整理するという両方が含まれるということを学習者に伝えましょう。

学習者からあまり答えやアイデアが出てこない場合は、どのような文章の時に図や表があるのか学習者に問いかけたり、学習者が持っている本を出してもらい、図や表があるものを探したりするよう促すといいでしょう。また、歴史上の出来事が書いてある文章を読む時にどのような表をかくといいか問いかけたり、人間関係の複雑な小説を読む時にどのような図をかくと理解しやすいか尋ねたりするといいでしょう。

フローチャートや、関係図、表などの枠組みを見せて、どのような文章の時にこれらが見えるかを考えてもいいでしょう。

ストラテジーの練習 (pp.50～53)

図や表を利用した後に、どのように利用して読んだのかを振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。どのように利用したのかを説明することが難しい場合は、教師が説明に必要なことばや表現を提示したりしながら、一緒に考えるといいでしょう。

Iは文章中に図や表がある場合、II、III、IVは文章を読んで自分で図や表をかいて内容を理解する練習です。IIとIIIは図、IVは表をかく練習となっています。学習者が図や表をかくことに慣れていない場合は、ペアやグループで一緒に考えながらかくといいでしょう。また、かいた図や表を発表したり見せ合ったりして、なぜその図や表をかいたかを共有するといいでしょう。

ストラテジーの練習 I (p.50)

図を対応させながら読まないと、理解しにくい文章です。文章中のことばや数字などと図を対応させながら読むように促すといいでしょう。対応させると、文章が理解しやすくなることに気づくことが大切です。

ストラテジーの練習 II (p.51)

<解答例>のような枝分かれ図で表すことが適している文章ですが、文章の内容と合っていれば、他の図で表してもいいでしょう。

ストラテジーの練習 III (p.52)

<解答例>のように矢印でパソコンと代金のやり取りを示して、有償と逆有償を対照させる図がかけるといいでしょう。

ストラテジーの練習 IV (p.53)

<解答例>のように、年代順にまとめた表や国別に整理した表がかけるといいでしょう。

ストラテジーを使って読もう I 「環境問題とはどのようなものか」 (pp.54～55)

◆読んでみよう

1. 文章と図を対応させながら読む練習です。どのようなところに注目して文章と図を対応させればよいのか意識しながら読むように促すといいでしょう。

2. 図や表を利用した後に、どのように利用して読んだかを振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。図をどのように利用して読んだのかをことばで説明するのは難しい場合もありますが、ストラテジーの練習をしたことを思い出しながら、グループ

で考えたり、教師がサポートしたりして、ことばで説明できるよう導くといいでしょう。また、図を利用したことで、文章の内容がわかりやすくなったか、どのようなことがわかりやすくなったか教師が問いかけるといいでしょう。

ストラテジーを使って読もうⅡ 「国際ビジネスの展開」 (pp57～59)

◆読んでみよう

1. 文章を読んで、自分で図や表をかいて内容を理解する練習です。

1(1)

＜解答例＞に提示した図や表のほかに、地域をしぼって図示してもいいでしょう。学習者の日本語力に合わせて、解答例の一部（表の枠のみなど）を示したり、読む部分を限定したりしてその部分だけ図や表にするという活動にしてもいいでしょう。

2.

図や表を利用した後に、どのように利用して読んだかを振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。

学習者がかいた図や表をクラスで共有して、どのような図や表をかくと、どのような点がわかりやすくなるのか話し合うといいでしょう。

7. 周りの情報からことばの意味を推測する (p.61)

【この課のポイント】

この課では、わからないことばについて、ことばの構成（ことばの前に「非」や「不」などがついている、「パワハラ」は「パワ」と「ハラ」に分けるなど）から推測したり、周りの文脈から推測したりする練習をします。文章を読んでいてわからないことばがあったときに使えるストラテジーです。練習では、ことばの構成や周りの情報からどのようにことばの意味を推測したのかを意識することが重要です。また、推測が合っているかどうかよりも、推測の過程を意識し、どのように推測したかを丁寧に説明できることのほうに重点をおいて練習しましょう。

○あなたは知らないことばをどのように推測していますか。

学習者からあまり答えやアイデアが出てこない場合は、わからないことばがあっても辞書などで調べられない時、どうするか聞きましょう。また、ことばの構成から推測しやすいことばはどのようなものがあるか聞いてみるとういでしょう。学習者から例があがらなかったら、「リモコン」「就活」などをあげてどのように推測できるか聞きましょう。また、文脈から推測する場合は、前後に言いかえてあることばがあったり、そのことばの説明があったりすることを確認しましょう。

ストラテジーの練習 (p.62)

ことばの意味を推測した後に、どのように推測して読んだかを振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。どのように推測したかを説明することが難しい場合は、教師が説明に必要なことばや表現を提示したりしながら、一緒に考えるといいでしょう。

すでに「パワハラ」や「歯止めがかからない」ということばを知っている学習者がいる場合は、もしその意味を知らなかったらどのようにすれば推測できるか考えて、クラスで共有するといいでしょう。また、他のことばで意味がわからないことばを推測する活動をしていいでしょう。

ストラテジーの練習 I (p.62)

<解答例1>は、ことばの構成から推測する例で、<解答例2>は文脈から推測する例です。

ストラテジーの練習Ⅱ (p.62)

「歯止めがかからない」は「歯止め」と「かかる／かからない」に分けても、意味が推測しにくい表現です。このような場合は、文脈から推測するしかありません。このような場合があることも学習者に伝えましょう。

ストラテジーを使って読もう 「健康リスクへのアプローチ」(pp.63～66)

◆読んでみよう

ことばの推測をした後に、どのように推測して読んだかを振り返ることで、メタ認知の活用を促す練習をします。ことばの構成から意味を推測する方法と、文脈から推測する方法の2種類の方法を練習するといいいでしょう。ただし、すべてのことばが構成から推測できるわけではありません。また、ことばの構成から推測できた場合でも、さらに文脈からも推測し、自分の推測が正しいかどうか確認するように促すといいいでしょう。

1は①②のことばを推測する練習、2は自分でわからないことばを選んで推測する練習です。②「リスク要因の同定」については、前後の文だけでなくその後の文章(32行目まで)も読むと、より推測しやすくなります。同じ内容が続く時は、すぐ近くの間だけではなく、その後が続く文章を読んだ上で推測するように促しましょう。

指定されたことばや、そのほかのことばについて、推測しなくても意味が全部わかるという学習者には、もしその意味を知らなかったらどのように推測すればいいか考えるように促したり、ことばの意味がわからない学習者にどのように推測すればいいか伝える役割を与えるといいいでしょう。また、文章をすべて扱うことが難しい場合、読む範囲を決めて、その範囲内で推測する活動をしてもらいましょう。

8. 質問して確認する (p.69)

【この課のポイント】

この課では、わからないところを質問して確認する練習をします。読んでいてわからない部分がある時に、誰かに聞くのは問題を解決するストラテジーの1つです。しかし、単に聞くだけでは、自分が求めている答えが得られない可能性があります。この課では、自分がわかっている部分とわからない部分を意識し、自分が求める答えを得るにはどのような質問をすればいいかを考えて、自分の理解があっているかどうかを確認したり、意味の違いを確認したり、理解が不十分な部分の言い換えや具体例を求めたりする練習をします。ただ単にわからない部分を誰かに質問して教えてもらうというのではなく、まずは自分で理解しようと努力し、その理解が正しいかどうかを確認するための質問をすることに重点をおきましょう。

○あなたはどのように質問して確認していますか。

学習者からは『「○○は何ですか」という質問をする」という答えが出てくるかもしれませんが、「○○は何ですか」というような辞書で調べれば答えがわかる質問ではなく、まず自分で考えて、その理解が正しいかどうかを確認する質問をするように促しましょう。

質問の例として以下があります。

＜違いを確認する＞

文章を読んでいて、わからない表現が出てきた。しかし、その表現と似ているのではないかと考えられる表現がある。

→「この表現は、○○と似ていると思うのですが、どこが違いますか」

＜わかる部分とわからない部分を示し、具体的に質問する＞

文章の意味が全体的によくわからない。しかし、前半部分はだいたい理解できていると思う。

→「この文章の前半部分は○○という意味だと思うのですが、この後半部分がよくわかりません。後半の部分を説明してもらえますか」

＜理解が合っているか確認する＞

おそらく理解は正しいと思うが自信がない。

→「ここは○○ということだと思うのですが、合っていますか」

＜言い換えや具体例を求める＞

文章の内容が抽象的だ。内容はだいたいわかるが、はっきりしない。

→「この部分は○○という意味だと思うのですが、はっきりわかりません。具体的な例があったら教えてもらえますか」

ストラテジーの練習 (p.70)

わからないことがある時に、自分が求める答えを得るにはどのような質問をすればよいかを考えることで、メタ認知の活用を促す練習をします。

(1) は表現の意味を質問する練習です。単に「意味は何ですか」と質問するのではなく、自分が知っていることばの意味との違いを確認したり、自分で推測した意味が合っているかどうかを質問するように促すといいでしょう。

(2) は文の意味を質問する練習です。自分のことばで言い換えたりして、その理解が正しいかどうかを質問するように促すといいでしょう。

(3) は文章全体の中で筆者の言いたいことを質問する練習です。自分の理解が正しいかどうかを質問するように促すといいでしょう。

(4) その他に自分でわからないところを選んで質問を考える練習です。ストラテジーの使い方の例(69 ページ)を参考にして質問を考えるように伝えといいでしょう。学習者がうまく質問を作れない時は、クラス全体で質問を考えて適切な質問ができるように教師がサポートするのもいいでしょう。

ストラテジーを使って読もう 「人と動物の関係を地球規模で見てみる」

(pp.71 ~ 74)

◆読んでみよう

わからないことがある時に、自分が求める答えを得るにはどのような質問をすればよいかを考えることで、メタ認知の活用を促す練習をします。ストラテジーの練習で練習したように、わからないことばや表現の意味を尋ねるのではなく、自分の推測や考え方が正しいかどうかを確認するための質問を考えるように促しましょう。学習者がうまく質問を作れない場合、ストラテジーの使い方の例(69 ページ)をもう一度提示してクラス全体で質問を考えて適切な質問ができるように、教師がサポートしましょう。

質問した相手が答えがわからない場合は、他のクラスメートに聞いたり、教師に聞いたりするように伝えといいでしょう。また、質問に対する相手の答えが間違っている場合は正しい答えが考えられるように教師がサポートしましょう。

この文章は難易度が高いので、時間の都合や学習者の日本語力に応じて読む範囲を決めて、その範囲内で質問して確認する活動をしていいでしょう。

読んだ後で (p.77)

第9課と第10課では4つのメタ認知プロセスのうち『評価』のプロセスを扱っています。読み終わった後で、どのぐらい読めたか、目標が達成できたかどうかを自分で振り返ります。また、戦略が効果的に使えたかどうかを自己評価し、次の学習につなげます。

9. 読んだ後、理解度を自己評価する (p.79)

【この課のポイント】

この課では、読んだ後、理解度を自己評価する練習をします。読む前に立てた目標が達成できたかどうか、読んだ内容が理解できたかどうかを自己評価します。読む前に目標を立てる練習は1課でもしましたが、この課では目標を立てて読んだ後で、目標が達成できたかどうかを自己評価する練習をします。読んだ内容が理解できたかどうかを評価する方法としては、「要約する」「質問を考えてそれに答える」「理解度を%で数値化する」の3つを紹介します。

練習では、文章を読んだ後、何が理解できていて、何が理解できていないのかを明確にし、理解できなかった部分について、どのようにすれば理解できるようになるのかを考えます。練習をした後で、理解できていない部分をどのようにして理解できるようにするかについても考えられるとよりよいでしょう。

○あなたは文章を読んだ後、どのように理解度を自己評価していますか。

「文章を読んだ後に自己評価をしたことがない」という学習者もいるかもしれません。しかし、文章を読んで「よくわかった」、「全然わからなかった」といったような感想を持つことはあるでしょう。そこで、よくわかったと思うのはどのような場合なのか、全くわからなかったと思うのはどのような場合なのかを思い出すよう促し、「よくわかった」、「全然わからなかった」という評価をどのようにしているのか聞きましょう。

ストラテジーの練習 (pp.80～85)

理解度を自己評価することで、メタ認知の活用を促す練習をします。Ⅰは設定された目標が達成できたかどうかを自己評価する練習、Ⅱは要約する（ポイントをまとめる、クラスメートに文章の内容を自分のことばで説明する）ことで自己評価する練習、理解度を割合で示し自己評価する練習、Ⅲは自分で質問を考え、その質問に答えられるかどうかで自己評価する練習です。

ストラテジーの練習Ⅰ (pp.80～81)

1. (2)

なぜそれが重要だと思っているかを読み取るために「そうであるからこそ」の前後の内容についてよく読み取れているか確認してください。

2.

目標が達成できたかどうかを自己評価することで、メタ認知の活用を促す練習をします。まず、1(1)(2)についてクラスで解答を確認し、自分が思っていた答えが正しかったかどうかを確認してから、2の練習をするといいでしょう。そうすることで、目標である「それぞれのエネルギーのメリットとデメリットを知る」「筆者が最も重要だと思っていることと、その理由を読み取る」ができたかをどうか自己評価しやすくなります。

3.

目標が達成できた人は答える必要はありませんが、達成できなかったクラスメートがいたら、達成できなかった理由をクラスで共有したり、どのようにすれば達成できるかをグループやクラス全体で考えてもいいでしょう。

ストラテジーの練習Ⅱ (pp.82～83)

1. (1)(2)

ポイントをまとめる際や、クラスメートに文章の内容を説明する際は、文章から文を抜き出すのではなく、自分のことばで内容を説明するよう伝えましょう。

2.

自分の理解度を数値で示して自己評価することで、メタ認知の活用を促す練習をします。数値で示したら、その根拠は何か考えるように促しましょう。「80%」であるなら80%である理由と、不足している20%は何であるのかなど問いかけ、その数値の理由をことばで説明できるようサポートするといいでしょう。

3.

どのようにすれば理解度が上がるのか具体的に考えるのは難しいかもしれませんが。その場合は、教師が解答例を示したりして、クラスで一緒に考えるといいでしょう。

ストラテジーの練習Ⅲ (pp.84～85)

1(1)

自分が知りたいことは何か考えて質問を作ったり、読んでいてわかりにくい部分があったら、その部分について自分に質問したりするように促しましょう。ただし、その際、「『基礎をはぐくむ』の『はぐくむ』の意味は何か」のような、単にことばの意味を問うような質問では、文章全体の内容を理解する確認はできないので適切ではないこと

を確認しましょう。

8課でも質問の練習をしましたが、8課は理解できない部分を自分で考えてから他の人に聞いて確認する練習です。この課は、文章を読んだ後に、文章の内容が理解できたかどうかを確認できるような質問を自分で考えて答える練習です。質問は、読みながら考えてもいいですし、読んだ後に考えてもいいです。

2.

自分で考えた質問に答えられたかどうかを自己評価することで、メタ認知の活用を促す練習をします。自分で考えた質問には答えられても、クラスメートが考えた質問には答えられないかもしれません。クラスで質問を出し合って、答えを確認しあうのもいいでしょう。

3.

自分の質問に答えられた人はこの問いに答える必要がありませんが、答えられなかったクラスメートがいたら、答えられなかった理由をクラスで共有したり、どのようにすれば理解できるようになるかをグループやクラス全体で考えたりしてもいいでしょう。

ストラテジーを使って読もう 「書くのも人間、読むのも人間」 (pp.86～89)
--

◆読んでみよう

1.

(1)

目標が達成できたかどうか自己評価することで、メタ認知の活用を促す練習をします。実際に目標が達成できたかどうか、達成できなかった場合はなぜ達成できなかったのか、どうすれば達成できるようになるかを考えることが重要です。

(2)

文章の内容が理解できたかどうかを評価することで、メタ認知の活用を促す練習をします。自己評価の方法はいろいろありますが、ストラテジーの使い方の例(79ページ)をもう一度見たり、ストラテジーの練習Ⅱ、Ⅲでやった練習を思い出したりして、自己評価するように促すといいでしょう。余裕があれば、1つだけではなく、2つ以上の方法で評価をしてみましょう。

(3)

どのようにすれば理解度が上がるのか具体的に考えるのは難しいかもしれません。その場合は、教師が解答例を示したりして、クラスで一緒に考えるといいでしょう。

10. ストラテジーの選び方・使い方を自己評価する (p.91)

【この課のポイント】

この課では、読んだ後に、適切なストラテジーが選べたかどうか、そのストラテジーを適切に使えたかどうかを自己評価する練習をします。新たなストラテジーの練習ではなく、今までに学習したストラテジーを使用して文章を読むことを意識し、そのストラテジーの選択とその使い方がよかったかどうかを評価する練習です。

文章を読んだ後、自分が使用したストラテジーについて、その選択はよかったのか、うまく使えていたのかを評価することに加え、他に使えるストラテジーはなかったか、より効率的に読めるストラテジーはないかについて考えることも重要です。

○あなたはどのようにストラテジーの選び方や使い方を自己評価していますか。

「文章を読んだ後にストラテジーの選び方や使い方を自己評価したことがない」という学習者もいるかもしれませんが、文章を読んでいる際、無意識であっても何らかのストラテジーを使っているはずです。そこで、学習者が最近読んだ文章について、どのようなストラテジーを使って読んだか（まず目次を見た、読みながらメモをとった、図や表を書いたなど）聞くといいでしょう。そして、そのストラテジーは、どのような場合に有効で、どのような場合に有効ではないのか、他のストラテジーは使えないのか、といったことを聞き出してみましょう。

ストラテジーを使って読もう 「肌の色より人間性」 (pp.93～96)

◆読んでみよう

1. 難易度が高く、やや長めの文章です。さまざまなストラテジーを使うためには、最後まで扱ったほうが良いと思いますが、学習者の日本語力に合わせて、読む部分を限定してもいいでしょう。
2. 自分がどのストラテジーを選び、どのようにそのストラテジーを使って読んだのかを思い出すことで、メタ認知の活用を促す練習をします。さまざまなストラテジーが使えるはずなので、複数のストラテジーにチェックを入れていいことを学習者に伝えましょう。

3.

自分がどのストラテジーを選び、どのようにそのストラテジーを使って読んだのかを自己評価することで、メタ認知の活用を促す練習をします。

(1)

1つの文章を読むためにさまざまなストラテジーが使えます。多くのストラテジーを使ったという学習者もいるでしょうし、1つか2つのストラテジーしか使わなかったという学習者もいるでしょう。一人ひとりが異なるストラテジーを使うこともあるでしょう。どのストラテジーを使ったかをクラス全体で共有して、一人ひとりが「ここでこんなストラテジーが使えるのか」と感じられるよう導きましょう。また、どのようにストラテジーを使って読んだのかを具体的に説明するように促しましょう。

(2)

選んだストラテジーが適切だったかどうかの判断は、そのストラテジーを使って内容が理解できたか、ストラテジーを使うことでより理解しやすくなったか、読みやすくなったかなどをもとに考えるよう促すといいでしょう。

(3)

クラスメートの説明を聞くことで、学習者が自分が使わなかったストラテジーのよさを感じ、次に使ってみようと思えるよう導きましょう。

★ 応用練習として、学習者が自分が読みたい文章、読まなければならない本の一部などを読み、ストラテジーの選び方・使い方を自己評価をする活動を試みましょう。